

編集後記

◇わが家の家庭菜園では、毎年、ジャガイモとサツマイモも栽培している。いも類の新品種は毎年続々と登場しているが、私は栽培の容易な男爵薯、キタアカリ、メークインとベニアズマから脱皮できないでいる。

今年のジャガイモは、春先の低温の影響もあって小ぶりで収量もやや少なかった。サツマイモは、異常な猛暑続きにも拘わらず生育旺盛である。収穫も間近となっているが、さて味と収量はどうかだろうか、楽しみは尽きない。

◇農林省の畑作振興課でいも類を担当していた1972（昭和47）年7月、所管の後志馬鈴しょ原原種農場から「後志支庁真狩村・留寿都村の一部の馬鈴しょ圃場からゴールデンネマトーダが発見確認された。」との第一報が入った。その時の衝撃が今蘇る。この線虫、すなわちジャガイモシストセンチュウは現在、残念ながら北海道内はもちろん、止まることなく全国的な広がりをみせており、危機感が強まっている。

そこで今回の特集として、「ジャガイモシストセンチュウ被害の現状と対策」をとりあげた。奈良部孝氏ほか関係者に、それぞれ専門の立場から現状分析とその対策について、解説をお願いした。今後、本センチュウの予防と被害の軽減に結びつく、継続的な対策の実施を願っている。

◇知人の高橋修さんにも寄稿をお願いした。高橋さんは、京都府庁で農業改良普及に長く従事された農業指導のベテランである。府庁退職後、約20年間にわたり海外農業技術協力に尽力されてきた。寄稿いただいた「アフガン・サチュマイモ誕生物語」は、“緑の大地計画”の一部分だ。その全貌は、「アフガン農業支援奮闘記」（2010年3月、石風社発行（電話：092-714-4838））にまとめられている。この本は、現地主義を理念として実践された農業支援の活動記録である。無欲な活動姿勢に、頭の下がる思いで読み終えた。

（狩谷 昭男）

□（財）いも類振興会における人事異動のお知らせ。

退 職 平成22年6月30日付 事務職員 鈴木美津子

採 用 平成22年7月1日付 事務職員 宮城 恵子

いも類振興情報 第105号

2010（平成22）年10月15日発行

発 行 財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィッパ赤坂303

TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp

振 替 00130-1-110152

印 刷 株式会社丸井工文社